

第5・6学年 算数科学習デザイン

令和3年6月14日(月) 5校時

5年生 2名 6年生 4名

指導者 教諭 満塩 太吉

1 単元名【5年】単位量あたりの大きさ(7時間)
[本時]「単位量あたりの大きさで環境を見よう」

2 本時の目標
単位量あたりの考えを用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。

3 授業改善の視点

1 単元名【6年】「分数×分数」(10時間)
[本時]「逆数について考えよう」

2 本時の目標
逆数の意味を理解する。

(1) 黒木ベーシック

- ①「めあて」と「まとめ」の一体化
⇒児童の問題意識から「めあて」をつくる
- ② 言語活動の充実
⇒「練り合いの場」での根拠をもとにした交流
- ③ 児童と共につくる板書
⇒「見出し」の活用、教科の特性にあった板書
- ④ 定着状況確認の場
⇒「たしかめよう(習得)」OR「ジャンプ問題(発展)」
- ⑤ 家庭学習への意欲化
⇒次時の予告
⇒「ジャンプ問題」の提示

(2) 学び合い

- ① 複式学級の特徴
学習の仕方をしっかりと身に付け、主体的に協同的に解決する子ども
- ② 「聴き合う関係」づくり
わからないところを自分から「教えて」と聞ける子ども、それを自然に受け止める子ども
- ③ 教師の役割
○「聴く」「つなぐ」「もどす」
○「低学力の子どもへのケア」

4 本時の実際(6/7)

主な学習の流れと児童の反応(☆)	時間位置
1 導入 地球温暖化に興味をもつ。 ☆二酸化炭素の量も増えているのでは ☆環境に気をつけているので減ったのでは めあて 単位量あたりの大きさを使って、環境について考えよう。	8分
2 共有の課題 問題① 1人あたりの二酸化炭素排出量を求めて、グラフにまとめてみる。 ☆二酸化炭素を出した量÷人口で求められる ☆小数になったらどうしよう ☆グラフにまとめてみると変化の移り変わりがよくわかる 問題② 日本以外の国の一人あたりの二酸化炭素排出量を見て、考察する。 ☆アメリカが一番多い ☆中国は少ない。 ☆人口との関係を調べるとどうなるかな ※【言語活動の充実】自分の考えを理由つけて友だちに説明できる。 まとめ 単位量あたりの大きさの考えを使うと、身の回りの環境についても考えることができる。	8分 13分
3 ジャンプ課題 アメリカと中国のどちらが二酸化炭素排出量が多いか考え、単位量あたりの大きさの理解を深める。 ☆アメリカと中国とは人口がちがう ☆工業が盛んなアメリカかな ☆人口が多い中国かな	3分
4 本時の学習をふりかえる。 ・自分がどのように考えたかを書く	7分

相互交流【異学年】

4 本時の実際(5/10)

主な学習の流れと児童の反応(☆)	時間位置
1 導入 1～9までのカードを使ったゲーム的な要素を取り入れた分数に興味をもつ めあて 真分数 × 真分数 のかけ算で1になるにはどんな分数にしたらいいだろう。	
2 共有の課題 問題① 積が1になる場合の(分数)×(分数)の式を考える。 ☆答えが1になるってどんなとき ☆数字を入れて考えてみよう まとめ 2つの数の積が1になるとき、一方の数の逆数といい、分母と分子を入れかえた分数になる。 問題② 整数や小数の逆数について考える。 ☆6は $\frac{1}{6}$ と考えればいい ☆小数は分数になおせばいいな	
3 ジャンプ課題 1や0が逆数であるか、ないか考え、友だちに説明することができる。 ☆かけて1になればいい ☆1の逆数は1 ☆0をかけると0になるから逆数ではない ※【言語活動の充実】自分の考えを理由つけて友だちに説明できる。	
4 本時の学習をふりかえる。 ・自分がどのように考えたかを書く	

5 評価

単位量あたりの考えを用いて、身の回りの事象について考え、理解を深めたか。

5 評価

逆数の意味を理解できたか。

